

家族と友達の優しさについて

中学一年 宮本 望愛

私は家族の優しさと友達の優しさを感じる出来事を振り返ってみました。

まずは友達について振り返ってみました。その友達は二つ年下の女の子で隣に住んでいます。小学生の頃は、毎日一緒に登下校していました。一緒に待ち合わせをして遊びながら帰ったり、時には喧嘩もしたりしました。私が卒業する時にその友達から、感謝の言葉が書かれた手紙をもらいました。それには、手作りの小さい折り紙を使った四葉のクローバーが貼り付けてあり、綺麗な字で「ありがとう。大好き。」と書かれていました。それを読んだ時にぬくもりを感じました。今でも大切にとっていて、その子と一緒に通った通学路を懐かしく思います。

私の気持ちを母が気づいてくれたのか、この前、遊ぶ会を企画してくれました。一緒にゲームをしたり、父母とその子と四人でお寿司を食べに行ったりして話が盛り上がったのでとても楽しかったです。

その後一緒にお風呂に入りました。その友達は友達同士でお風呂に入るのは初めてだったようで、楽しい思い出になりました。昔の様に

話をしました。この友達は、いつも私を褒めくれたり、話を一生懸命聞いてくれたりするところがとても優しいと思います。この友達は、夏休み一番の思い出になったと言ってくれました。とても暖かい気持ちになりました。

振り返ってみて、この何気のない日常にも、優しさやぬくもりが沢山隠されている事に気がつきました。私と隣の子の気持ちに気づいて遊ぶ会を企画してくれた母、友達が大好きなお寿司に連れて行ってくれた父、私を喜ばせようと色々考えてくれたり、褒めてくれたりする友達。感謝の気持ちも伝えていました。みんなが感謝の気持ちを言葉にすれば、もっと気持ち良く過ごせる世界が来ると思いました。

次に家族の優しさについて考えてみようと思いました。父母は私に色々な経験をさせてくれたり、ご飯を作ってくれたり、悩み事を聞いてくれたり、困った時に助けてくれたり、数え切れないほど沢山してもらったと思います。

小学六年の頃、最後の学校生活だけど受験に受かるために勉強に追われていて、夏休みは塾と家の往復だった時に、勉強の事や悩み事にアドバイスをくれたりしました。そして合格した事を知った時に

一緒に泣いて自分のことかのように喜んでくれているところに優しさやぬくもりを感じました。今は相愛中学校で楽しく過ごせる事をとても嬉しく思っています。去年オープンスクールで、先輩から元気をもらいました。今度は私がオープンスクールに参加して来年相愛に入学する人達にやる気をUPさせてあげたいと思いました。それが家族や先輩への恩返しにもなると思っています。